優秀賞

一般部門〈家族の絆〉

# 「言われなかった一言」

神奈川県
柘野 茂樹

銀行に入り二年程経過した頃、お見合いをした。素敵な人だったのでお付き合いしたいと思った。何回目かのデートの時、ご両親の事を聞いた。ご両親は当時としては珍しく恋愛結婚で本当に仲の良い夫婦だった。時に義父が義母を叱る事もあったそうで、そんな時、義母は夜一人庭に出て泣き乍ら「おとうちゃんのバカ」と言ってバケツを蹴飛ばしていたが翌朝には満面の笑顔で「おとうちゃん！　おとうちゃん！」と義父に尽くしていたと。「声を荒げない事が夫への礼儀」とでも思っておられたのだろうと思った。この人に育てられた娘さんと是非結婚したいと思った。正式にプロポーズ。私が転勤の多い銀行員だったので義父は乗り気でなかった様だったが、お義母さんが背中を押してくれて結婚する事ができた。

転勤を重ね職は係長になった頃、ある業務活動で「頭取表彰」を受けた事もあり自信を持っていた。でも、次の異動は子会社への出向だった。取引先の社長から「片道切符だぞ」と言われた。ショックだった。当時、社宅住いだったので妻は、廻りの奥様方から「ご主人出向？　何かあったの？」と言われた様だが私には一切何も言わず常と変らぬ笑顔で支えてくれた。「笑顔で尽くす事が夫への礼儀である」と義母と同じ様に考えてくれていると思い感動、泣いた。三十代半ばで出向、辛い思いの日々であった。妻の笑顔と優しい眼差し、それでいて「偉くなって！」と一度も言われなかったので子会社で頑張ろうと全力で取り組んだ。仕事振りを見ていてくれたのか、ある役員が「君は当社の良心だね」と言って頂いた。妻からの「言われなかった一言」に加え、この役員からの「一言」が私にとって子会社でこれからを「生きぬいていく力」となった。

五十歳の頃、取締役に選任された。妻が笑顔で、「お父さん、良かったね」と言ってくれた。「ただいま」と言えば「おかえり」の妻の笑い声。笑顔が見える日々の幸せ。「片道切符」の行き先は「幸福行き」だった。妻に心から感謝。